

論 說

公共事業に對する勞働奉仕制の意義

多 田 基

獨逸に於ける勞働奉仕制度の持つ意義には國民經濟的なものと教育的なものがある。前世界大戰後に於ける獨逸の失業者數はその登録せる者のみでも六百四萬七千名と云ふ多數に及びこれに扶養家族員數を加へれば實に怖るべき數に達してゐた。かゝる多數の失業者群を救濟する方策として自動車専用道路建設とかその他の公共的建設事業に失業人口を吸収したが、失業現象の根本的解決策として勞働奉仕制度が一役を買つてゐる。即ち勞働奉仕制度は唯單に一時的な失業状態を除かんとする目的で行はれたのではなくもつと廣い視角から弘く仕事の機會を作り出してや

ると云ふことに、その目標が置かれてゐた。但しこゝに云ふ仕事は、決して私經濟的分野に於ける仕事を奪ふと云ふのではない。國民經濟に寄與する仕事である。従つて獨逸國勞働奉仕法の第一條第四項には、獨逸國勞働奉仕ハ公益的事業ノ遂行ニ限定サルと規定されてゐる。かゝる公益的事業は、私經濟に依つては遂行することが困難であり、又國家自身の費用に於いてはその時の財政的事情より實行が至難であるが、併し民族の將來發展のためには不可缺な事業を云ふのであつて、獨逸に於いては新らしき土地の獲得と云ふことであつた。勞働奉仕制度に依り、低廉なる費用を以つて、統一的にかゝる仕事を遂行して、獨逸は土地の獲得が齎らず國民經濟的成果を得んと努めたのである。當時の獨逸は、その經濟政策として工業製品の輸出振興を圖り、年々輸入する食糧品四十億マルクの代償を得ることに専念してゐた。國民經濟に對するこの重壓から獨逸が逃がれんとすれば、食糧の自給自足を計つて食糧購入費を節約することであり、他方國民經濟を繁榮に導くべき他の事業にこの費用を投下すれば、獨逸の經濟的飛躍は容易となるのであつた。新らしき土地の獲得に依つて外國よりの食糧品輸入から解放され、ば獨逸國民の生活基礎が確保され、従つて外國貿易の自由を贏ち得ることが出来るのである。

これと共に、勞働奉仕制度の作業に關聯を有するものは移住政策である。都市の工業化の進展につれて勞働人口は都市に集中し、彼等の住居が拂底する結果、非衛生極まる生活を營み、果ては病魔に襲はれて斃れる者が續出するの現象が著しくなつた。彼等を不健全なる生活から解放するため

は郊外に清潔な低廉な住宅を建設して、労働者を住まはしめ、衛生の點情操の點から十分配慮することであつた。かくして各住宅には園藝地を設け、或る程度の食糧自給の歡びを享樂せしめた。かゝる住宅地域 (Siedlungsgebiet) は獨逸大工業都市の周邊に於ける新生活の一樣相と言つてよい。これは郊外移住であるが、他方、人口稀薄な農業地域に農民を移住せしめる農民移住政策がある。この兩政策に於いて労働奉仕制は大いに貢献してゐる。移住政策に於ける労働は言ふ迄もなく特殊な専門的な相當の熟練を要するものではなく、極めて一般的な基礎工事に對するものである。即ち排水灌溉地均らし、道路の築造等である。

以上は奉仕制の國民經濟的意義であるが、かゝる意義よりも増してわれわれが重要視すべきは教育的な意義、即ち労働奉仕制度が青年に與へる精神的影響である。

二

一般に經濟學で定義せられる労働概念の代表的なものは、財の有價的獲得の爲に利用せらるゝ人間活動を労働と云ふ説である。云ふ迄もなく、この場合、財とは賃金所得を、又有價的とは労働を提供する者の肉體的勞力の給付を意味する。この肉體的勞力の給付には苦痛と強制的色彩が伴つてゐる。これを端的に云ふならば、労働者は労働を賣つて、その價格を受取るのである。かゝる取引に於いて、彼等は出来る丈最小の犠牲を提供し、出来る丈最高の價格を得やうと努めることは當然である。

併し乍ら、彼等は勢力の弱さから、常に彼等の欲求する最高價格の賃金を受取ることが出来ないで、むしろ最小限度に近い價格しか得られないと云ふ傾向が普通である。それでは、最小限度の限界は何處にあるかと云へば、彼等が労働力を再生産し得る點にあると言はなければならぬ。然らずんば、彼等は肉體的勞力の給付を繼續して提供することが出来ないからである。

かゝる見解は主として自由主義的資本主義的労働觀であつて、雇傭者及労働者がこの見解を堅持する限り、彼等の利益は相對立するが故に階級闘争は跡を絶つことが出来ない。獨逸國民社會主義は先づ右の如き労働觀を棄て新しき労働觀を之に代位せしめるやう努力したのである。即ち賤しき筋肉労働を尊き名譽ある労働に、苦痛の労働を歡喜の労働に、私益の労働を公益の労働に變容したのである。かゝる變容を招來するための手段として青年の労働奉仕制度が選ばれるに至つたのは、労働奉仕の性格から云つて當然である。

労働が事務室や書齋で行はれるか、又は田畑で行はれるかに依つて労働の尊卑を定めるべきでなく、労働賃金の多寡に依つて労働の價値の大小を判斷すべきでない。たとへ労働の表現形式に相違はあるが、その労働が眞摯である限り、その労働は尊敬に値ひするものである。従つて労働者の労働に對する精神的態度の如何に依つて個人の受けるべき尊敬を決定するものである。併し乍ら、その労働が個人的に尊敬はされると雖も、果して有價値であるか否やを決定する尺度は、全民族に全國民經濟に寄與するかどうかと云ふことである。即ち民族に對する寄與が大であればある程その労働

の價値は大であると云ふことが出来る。而して民族のこれに對する感謝も大となる。かくして民族のための労働は人をして高潔ならしむと云ふ命題が眞理性を得て来る。これに依つて、民族のための労働奉仕は、名譽奉仕に高められ、苦痛の労働奉仕は、民族から感謝を受ける歡喜の奉仕となり、私益が後景に退く公益的奉仕となる。労働奉仕こそは、寔に上述の労働觀の最も有效なる實現方法であり、全獨逸青年にかゝる労働習性を與へることを唯一の任務としたのである。

而して右の労働觀は個人と全體民族との有機的結合を基底としてゐることは云ふ迄もない。即ち各個人は全體民族の一員として生命をこの世に享けたものであるから個人は全體に屬してゐる。全體を離れては個人は存在せず、又個人は全體の一員と成る前に既に完全な獨立の個人として存在しない。他の個々人との精神的關係に於いて初めて完全なる個人となり得る。即ち全體の内に自己を見出して初めて人格を得るのである。かくして又僚友精神が昂揚されて来る。而しこの全體は、利益に依つて結合し又は契約に依つて生じたる利益團體ではなく、喜びも苦しみも共に分かち合ふ同一民族を粹とせる協同體である。が故に各個人は自己の民族に奉仕すべしと云ふ命題が生じて来る。従つて民族全體の福祉に寄與することが個人のそれよりも高い地位を占めることは當然である。かゝる原理は労働奉仕のために獨逸青年を六ヶ月間宿泊せしめて彼等の肉體的精神的鍛鍊を行ふ労働營舎 (Arbeitslager) に於ける指導概念である。

以上の如く労働奉仕の意義には、國民經濟的のそれよりも教育的なものの方が強調されてゐるの

であつて、嚴格な規律と訓練との下に教育せられる獨逸青年は、勞働營舎の生活を通して協同體精神及祖國愛の精神を獲得することが出来るのである。ヒトラー總統が勞働奉仕に對して「國民の學校」とか「國民社會主義大學」と云ふ稱號を與へてゐるのは、獨逸青年を、教知を具備せる肉體的野蠻人に作り上げんと、の道場を重要視してのことである。

三

獨逸勞働奉仕制度が一般的勞働奉仕義務制を採用するに至つたのは、一九三五年六月で、最初の團員は二十萬名であつたが、現在では三十萬名に及んでゐる。一九三五—三六年度に於ける彼等の作業計畫は總計で三千五百件で、次の如き實績を擧げ得た。

築堤工事と河川改修工事で、從來水害の災厄に遭つてゐた五萬六千ヘクタールが保全され、排水並に水害防止工事に依り十萬四千ヘクタールの既墾地の收益を増加した。又耕地整理事業の分野に於いては、分散地の統合及必要道路の建設に依り二萬五千ヘクタールの耕作土地を産み出し、これに集約的農業を營むことが出来るやうになつた。又開發資材運搬道路の千四百軒建設に依つて七萬ヘクタールの耕地が開發されたのである。林業方面に於いては、木材搬出道路千二百軒を開通したことに依つて、今迄搬出困難と見られてゐた木材を市場に運び出し、大いに收益を高めた。他に、四千ヘクタールの土地に植林をしたり、一萬二千ヘクタールの森林に手を入れて、林業の保護に努めた。

又移住地の建設のために六千箇所で工事が営まれた。

以上の他にシユレスヴィヒホルシユタイン海岸の埋立工事等があるが、兎に角労働奉仕制度は、一九三五—三六年度に於いて約三十萬ヘクタールの耕地を改良し平均一ヘクタールに付七十ライヒスマルクの年收増加を擧げたと云ふ。

一九三七—三八年度に就いては、次の如き成績を擧げてゐる。河川改良及堤防工事に依り二萬九千ヘクタールの耕地を保護し、防波堤工事排水工事に依りて十一萬八千ヘクタールの土地の收益を増加せしめた。耕地整理を行なつた農地は、三萬一千ヘクタールであり、北海沿岸に於いては千五百ヘクタールの土地を開拓した。又荒蕪地の開發道路として三百八十軒が建設されたのである。林業方面では、五千七百ヘクタールの林地が再植林のために用意され、そのうち二千五百ヘクタールが植林され、五千八百ヘクタールの林地に造林手入れがなされ、林間道路三百四十軒が建設され、更に植林地の排水工事に依つて、六千七百ヘクタールが改良された。移住地労働に於いては三千箇所の工事で、道路及地均し工事が行はれ、更に一九三七年十二月以來ヘルマンゼーリング國營製鐵所の補助作業に一役を買つた。以上の他に風水害に依る破壊修理及森林虫害の防止に五萬九千日の労働日を擧げることが出来る。更に一九三八年にはオストマルク及同年秋にはズデーデン地方の労働奉仕が計畫されたのである。要するに労働奉仕制度の國民經濟的貢獻は、意外の成績であつて、この実績は、戦時下は他の分野に於いて益々大となることであらう。

四

戦争目的遂行のために、戦争資源捻出に用ひられる四つの主たる源泉は、ピグー教授の「戦争經濟學」に依れば、(一)生産増加、(二)個人消費の節約、(三)資本の新形態投資への縮少、(四)現存資本の縮少等であると云ふ。こゝで問題として取り上げるのは、(一)の生産増加である。ピグー教授の生産力増加に關する要旨を以下少しく述べることにする。

生産増加は、一國が引き緊め得る「たるみ」に依存してゐる。この最も明白なる形態は、失業人口であつて、英國では一九一四年七月に於ける失業數は三六パーセントで、一九三九年八月に於いては八六パーセントであるから、今次戦争の當初に於いては、失業者吸収に依つて引き緊め得る「たるみ」は二十五年前より大である。他方獨逸に於いては、所謂失業者は殆んど存在しなかつたのである。(これはナチス勞働政策の建前から當然である)。

「たるみ」を引き緊める他の方法は、閑暇の縮少である。大抵の先進國には、全然仕事に従事せず又はほんの名義丈の仕事に携はつたり、私有財産で生活し、又は他人の所得に寄食したり、スポーツ、ゲーム、旅行、娛樂でその日その日を過としてゐる一定數の人口が存在してゐるものである。これらの閑暇人口は、軍隊、病院、産業界に入り又は自宅の下婢の代りを務めることに依つて、活動的勞働者の仲間に入れることが出来るのである。或ひは又隠退せる勞働者を工場に復歸せしめたり、少年少女を普通

年齢より早く工場に働かせたりして労働力の増加を圖ることも出来る。更に労働者数の増加に依つて生産力の増大を圖る許りでなく、平時よりは長時間労働に従事せしめて労働結果の増大を企てる。平時に於いては普通の労働時間慣れた緊張度合を持つて従業してゐる彼等を長時間繼續的に労働せしめることは労働能率の低下を意味するのであるが、何はともあれ全體的に觀て必要に迫られたる一般労働者は平時より多くの仕事をなす結果、長い期間に亙つては多くの商品を生産することとは事實である。

以上述べた生産力の増加方法は、大部分労働者の愛國心に訴へたものである。志願兵は軍隊に入り、軍需工業労働者は自ら進んで長時間の労働に従事するのである。所が愛國心と結びついた直接又は間接的國家の強制手段がある。直接的強制の例は、徴兵適齡者を軍隊に收容することであり、間接的なのは重税を課すことである。重税を課すことは、生活に一種の脅威を與へるので、人々は多くの所得を得んがために働くものである。が故に、愛國心に動かされない者も、彼等は進んで長時間の労働に従事し又は閑暇生活又は隱居生活から再び産業界に入るものである。

併し乍らこれで以つて、たゞみを引き緊めて生産力を増加せしめる方法が終つてはゐない。以上の他に、雇傭者及被傭者間の紛争に依る休業の防止がある。元來休業はそれが起る産業の生産力を損失せしめる許りでなく、この産業と關聯せる他の産業の生産力をも低下せしめるものであるから、戦時に於いては雇傭者及被傭者の勝利を確保すると云ふ愛國的熱情に依つて、かゝる休業は出來得

る限り回避するやう努めるべきである。更に、必要とあらば平時に於いては輿論が承服し得ないやうな法律に依つて休業を禁止することである。

産業上のたるみをどの程度引き緊めることが出来るかを統計的に精確に示すことは出来ないが、各形態のものを綜合して今次大戦に於いては英國では、凡そ二〇パーセントは生産力増加に労働を向けることが出来る。ピグー教授は以上の如く述べてゐる。

五

論述が脇に逸れてしまつた観があるが、私がピグー教授の生産力増加に關する所見を披露したのは、自由主義民主主義を標榜せる英國では戦時下の労働力不足を何處から補ふか、又その方法は如何なるものであるかを知りたかつたのである。先づ失業及有閑人口を産業界に吸収するために愛國心を利用することを第一方法とし、この種人口が英國には前大戦より今次大戦當初に於いては大であることを以つて生産力の増加を期待し、更に強制的には重税を課すと云ふ手段を用ひて、彼等を産業界に入らしめやうとしてゐる。これは徹頭徹尾、自由主義的資本主義的労働觀の典型的様相であると云へる。

隣へつて獨逸の労働奉仕制は新しい労働觀を獨逸青年の心底に芽生へさせ、かくして眞の労働の意義を彼等に體得せしめることが出来た。彼等が成人した場合には、今更祖國愛を吹き込むことも

なく、又重税と云ふ威壓に依つて勞働に従事せしめる必要もないのである。彼等は雇傭者になつても被傭者になつても獨逸民族のために歡喜を以つて勞働を指導し、勞働に従事し飽くまで協同體の永遠的生命のため奉仕することが出来るやう教育されてゐる。

英國に於ける様相が、この國に於いてあり得ないとは誰人も斷言出来ないであらう。が故にわれわれが先づ提唱したいことはたとへ遅ればせとは云ひながら、日本青年に新らしい勞働觀を注入し彼等の世界觀を新らしく打ち樹てることの急務である。このためには、灰色の理論を講壇から教へる許りを以つて學校教育の尠くとも大學教育の使命とはなさず彼等にシヤベルを鍬を握らせて綠なす、生命を體驗せしむべきである。併し乍ら、かくするためには先づ全國學徒の統一的組織を編成して、義務制勤勞奉仕隊を作り、無爲に日を過ごしつゝあると非難され勝ちな青年學徒を一定の期間を定めて筋肉勞働を通じての團體的訓練をなす必要がある。勿論これがため、從來スポーツ本位であつた各學校學友會が發展的解消を遂げて學校單位の報國團になつたことは、學友會の質的變化と統一的組織の先驅的現象であると觀ることが出来る。この組織が整備完成されば、軍需工業に於ける勞働力不足を補ふ方法は甚だ容易となる許りでなく、公共的事業の作業に従事せしめて我が國民經濟への貢獻をなさしめ、以つて彼等に勞働の榮譽をになはすことが出来るであらう。

特に、戰時下において勞働力の不足と國家自らの費用に依つては實行し難い道路の築造改良、維持事業、港灣及鐵道線路工事、農地開墾、沼澤地及高原地方の開發に主務官廳が勞働奉仕制度を利用して

この種事業の完成を計るべきである。もつとも特別な専門的技能を必要とする分野に於いては一般的な基礎的なものに限る必要がある。

ブルガリヤは既に一九二一年に労働奉仕制度を採用した國であるがその年より、一九三二年に至る十一年間に於ける例へば、道路事業の作業実績には驚くべきものがある。一九二一年三月末にブルガリヤの道路總延長は一萬四千三百七十六杆で、その中良好状態に置かれてゐたものは僅か三千三百六十八杆に過ぎなかつた。所が十一年間の裡に二萬杆の道路網が完成し、その内一萬杆は優秀道路であると云ふ。この他に鐵道及港灣工事にも見事な成績を挙げ、ブルガリヤ國民經濟に大いに寄與してゐるのである。もつとも平時であるが故にかゝる実績を挙げ得たのである。而してこの事業に従事せるものは十一年間に總員二十萬六千七十二名であつた。我が國の青少年學徒は二千萬と言はれる。勿論この内労働能力を有する者は尠くとも百分の一以上はあるから、これらを總動員すれば、軍需的な及民需的な分野に於ける作業実績には著しきものがあるであらう。

六

時局の進展するにつれて、統制經濟は更に一層強化せらるべき運命にある。日本統制經濟は獨逸、伊太利又はソ聯の如くに一定の經濟的理想を以つてその實現に努めると云ふのとは異なり、支那事變と云ふ外的事情に迫られた止むを得ざる統制經濟であると言はれる。従つて自由主義的資本主

義的經濟原理を中心として經濟の諸現象は動く習性がある、必要止むを得ざる事態に迫られて初めて統制經濟と云ふ外枠を作り、從來の經濟諸現象を無理矢理にこの枠の中に押し込めやうと云ふ無理から現在の日本の統制經濟には惱みがある。従つて統制經濟の外へはみ出ると云ふ違背的事象が生ずるのである。この原因は要するに人間労働を中核とする經濟觀の倫理化が統制經濟に一步遅れ、日本國民に新しい經濟觀が創造されない裡に外枠が出来たことに由來すると一面に觀ることが出来る。

茲に於いて、労働奉仕制の持つ意義が前景に浮び出るのである。國家全體の利益となる凡ゆる事業に青年學徒の労働を奉仕せしめて、精神並に肉體の鍛鍊を行つて新世界觀を彼等に植ゑ込み、次の世代の擔當者として彼等の活動に矛盾懷疑を毫も抱かせることなく、寔に叡智に輝く逞しき青年を育てることこそわれわれの焦眉の問題であらう。

この原稿の校正に當つて、文部省では愈々各學校報國團を全國的統一組織の下に置き、一箇月間の學業の代りに労働奉仕を義務的に實施することを知り、私の所説が蛇足になるのを反つて欣ぶものであるが、労働奉仕の意圖するところは、一時的な止むを得ざる外的事情に迫られた意味に於ける所謂労働奉仕ではなく、指導者教授側も從屬者團學生側もこの労働奉仕制を通じて、舊世界觀を脱殻する關門とし、新世界觀の創造といふ高い目標に向つて邁進すべきであることを強調したい。